

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患克服研究事業）
分担研究報告書

Tumoral calcinosis を合併した全身性強皮症の 1 例

研究分担者 石川 治 群馬大学大学院医学系研究科皮膚科学教授
協力者 長谷川道子 群馬大学大学院医学系研究科皮膚科学助教
協力者 曾我部陽子 群馬大学大学院医学系研究科皮膚科学医員
協力者 永井弥生 群馬大学大学院医学系研究科皮膚科学講師
研究代表者 佐藤伸一 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科皮膚病態学教授

研究要旨

全身性強皮症に合併した肋骨、腰椎に多発する tumoral calcinosis の症例を報告した。

A. はじめに

Tumoral calcinosis は大関節周囲に比較的大型で腫瘍性の石灰沈着をきたすことを特徴とする疾患である。本邦では主として整形外科領域から報告されることが多く、皮膚科からの報告は少数である。今回我々は、全身性強皮症に肋骨と腰椎に多発性に生じた Tumoral calcinosis の症例を経験した。

B. 症例

患者：64 歳、女性
初診：1999 年 5 月 27 日
主訴：レイノー現象、手指のこわばり
家族歴、既往歴：特記すべきことなし
現病歴：初診の 2 年前よりレイノー現象と手指のこわばりが出現。手指、四肢、軀幹の硬化と間質性肺炎があり、全身性強皮症と診断し、PSL20mg と CPA50mg で加療を開始した。初診 6 年後の 2005 年、胸部 CT で右肋骨に多結節性

の腫瘤を指摘された。疼痛などの自覚症状はなかった。腫瘤の精査のため入院。

現症：顔面、手指、四肢、軀幹に硬化がみられ、modified Rodnan total skin thickness score は 25 であった。前胸部は光沢を有した色素沈着があり、一部では色素脱失を伴っていた（図 1-3）。

検査所見（2006）：Ca 8.4mg/dl、P 2.7mg/dl、と Ca、P の値を含め血算、生化学に異常はなかった。免疫学的検査では CRP が 2.7mg/dl と軽度上昇。抗核抗体 1280 倍（HN）、抗 Scl-70 抗体 182.1index、抗 RNP 抗体 186.4index と高値陽性であった。その他 RF が 14IU/l と低値陽性以外、自己抗体は陰性であった。内臓病変は胸部 XP、CT で下肺野を中心に網状影がみられた。心エコー上肺高血圧症はなく、心電図も異常所見はなかった。内視鏡検査で逆流性食道炎がみられた。

画像所見：胸部 CT 肺野条件では両側下肺野背側にすりガラス影、網状影がみられるが以前と

比増悪傾向はなかった。右の肋骨部位に腫瘤状の陰影を認めた(図4)。縦隔条件では右第6, 7肋骨と腹部CTで第4,5腰椎に高吸収域の腫瘍性病変が多発していた(図5,6)。大きさは右肋骨の一番大きいもので40×25×12mmであった。骨シンチグラフィでは同部位に一致して集積の亢進がみられたが, FDG-PETでは異常所見はみられなかった。経過を追っていたが, 増大傾向があるため2006年9月に転移性骨腫瘍を疑い肋骨, 腰椎各々よりCTガイド下で生検を行った。

病理組織所見:肋骨,腰椎ともに黄白色で脆い組織が採取された。組織学的にはどちらも大小さまざまな無構造状の石灰化物がみられた(図7)。炎症細胞や異型細胞の浸潤はなく, Tumoral calcinosisと診断した。自覚症状がなく, 切除希望もないため, 現在まで治療は行わずに経過観察を続けている。

C. 考案

Tumoral calcinosisは1943年Inclanによって提唱された概念で, 局在性の関節周囲の腫瘍形成を特徴とすると報告した[1]。その後1996年SmackらはTumoral calcinosis 121例を検討し, 3つのタイプに分類した。タイプ1は血清Ca, Pがともに正常で, 代謝の異常や遺伝的な異常がなく, しばしば外傷に起因するもの, タイプ2は血清Caは正常だが, Pが高値で, 腎でのPの再吸収の調節に起因するとされるもので, このタイプは家族性の発症が多い。74%が家族性にみられ遺伝子異常も示唆されている。タイプ3は何らかの石灰沈着を起こす可能性のある疾患を合併しているもので, 慢性腎不全, 悪性腫瘍, 強皮症, サルコイドーシスなどが挙げられて

いる[2]。

全身性強皮症にはしばしば石灰沈着を合併するが, 大多数は皮下の結節で, 骨周囲に生じるものは稀である。我々が検索しえた限り, 部位などの詳細な記載があったものは7例で, 自験例を加えた8例中, 頸椎に見られたものが6例と最も多く, 次いで腰椎3例, 肋骨が2例であった。また, 自験例のように多発性に見られた例も3例あった(表1)[3-9]。

Tumoral calcinosisの治療としてはCa拮抗剤である塩酸ジルチアゼムや副腎皮質ステロイド, ビスフォスフォネート製剤, プロベネシド, ワーファリンなどの内服治療の報告があるがどれも確立した治療法ではなく, 奏功した報告は数例ずつである。外科的切除が確実ではあるが, 全摘が基本で, 取り残しがあると再発することが多いといわれている。しかし, 部位や大きさによっては周囲の組織に障害を残さずに切除することが困難な場合もあり, 適応については慎重な検討が必要と思われる。本症例では強皮症に対し副腎皮質ステロイド剤, ビスフォスフォネート製剤を投与しているが結節の縮小はみられていない。現在までのところ自覚症状がなく, 切除の希望もないため経過観察を続けているが, 過去の報告では腰椎に生じたTumoral calcinosisが脊柱管内に拡大し, 脊髄を圧迫して下腿の知覚鈍磨, 筋力低下を生じた報告もあるため, 慎重な観察が必要と考えた。

D. 文献

1. Inclan A: J Am Med Assoc 1943; 121:490-5.
2. Smack DP, Norton SA, Fitzpatrick JE: Int J Dermatol 1996; 35: 265-71.

3. Haverbush TJ, Wilde AH, Hawk WA: J Bone Joint Surg Am 1974; 56: 637-40.

4. Schweitzer ME, Cervilla V, Manaster BJ, et al.: Am J Roentgenol 1991; 157: 523-5.

5. Ward M, Cure J, Schabel S, et al.: Arthritis Rheum 1997; 40: 1892-5.

6. Van de Perre S, Vanhoenacker FM, Op de Beeck B, et al.: JBR-BTR 2003; 86: 80-2.

7. Shibuya S, Kawaguchi Y, Arima N, et al.: J Neurosurg Spine 2006; 5: 451-4.

8. Smucker JD, Heller JG, Bohlman HH, et al.: Spine 2006; 31: 2002-8.

9. Andelle L Teng, Mark R Robbin, Christopher G Furey, et al.: The Journal of Bone and Joint Surgery 2006; 88: 193-7.

E. 研究発表

1. 論文発表
Nagai Y, Sogabe Y, Ishikawa O: EJD 2008; 18: 473-4.

2. 学会発表
Nagai Y: 2nd international SSc forum in Paris, March 7-9, 2008



図 1 : 顔面



図 2 : 前胸部



図 3 : 手指

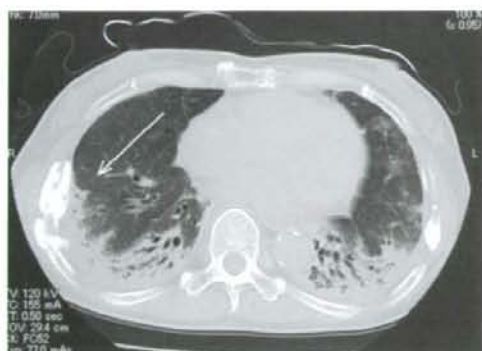


図4：胸部CT 肺野条件

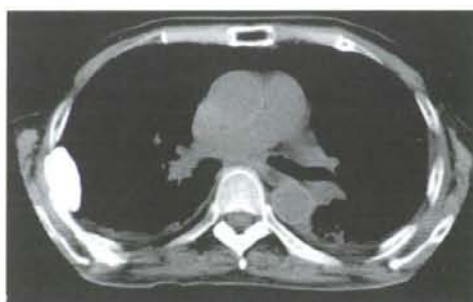


図5：胸部CT 縦隔条件



図6：腹部CT

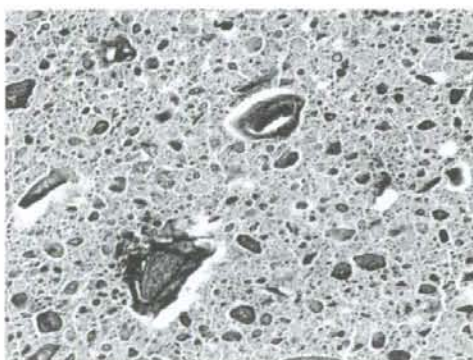


図7：組織所見

表1 全身性強皮症患者の骨に生じたTumoral calcinosis

	報告者	部位
1974	Haverbush TJ et al.	頰椎・肋骨
1991	Schweitzer ME et al.	頰椎
1997	Ward M et al.	頰椎・腰椎
2003	Van de Perre S et al.	頰椎
2006	Shibuya et al.	腰椎
2006	Smucker et al.	頰椎
2006	Andelle et al.	頰椎
	自験例	肋骨・腰椎

Ⅲ. 研究成果の刊行に関する一覧表

【書籍】

No.	著者氏名	論文タイトル	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
1	佐藤伸一	全身性強皮症へのステロイドの適応は.	宮地良樹, 幸野 健	EBM 皮膚疾患の治療 2008-2009	中外医薬社	東京	2008	135-139
2	佐藤伸一	全身性強皮症の診断.	竹原和彦, 佐藤伸一, 桑名正隆	強皮症のすべてがわかる本	保健同人社	東京	2008	43-54
3	佐藤伸一	全身性強皮症と血液検査.	竹原和彦, 佐藤伸一, 桑名正隆	強皮症のすべてがわかる本	保健同人社	東京	2008	55-61
4	佐藤伸一	全身性強皮症.	金澤一郎, 永井良三	今日の診断指針 第6版	医学書院	東京	2009	in press
5	佐藤伸一	レイノー症状.	宮地良樹, 古川福実	皮膚疾患診療実践ガイド (改訂第2版)	文光堂	東京	2009	in press
6	尹 浩信	サルコイドーシス	山口 徹, 北原光夫, 福井次矢	今日の治療指針	医学書院	東京	2008	890-891
7	尹 浩信	全身性強皮症の病因	竹原和彦, 佐藤伸一, 桑名正隆	強皮症のすべてがわかる本	保健同人社	東京	2008	18-24
8	尹 浩信	全身性強皮症の皮膚症状	竹原和彦, 佐藤伸一, 桑名正隆	強皮症のすべてがわかる本	保健同人社	東京	2008	36-42
9	尹 浩信	転写因子と皮膚の病態—線維芽細胞	玉置邦彦	最新皮膚科学体系 2008-2009	中山書店	東京	2008	99-103
10	尹 浩信	皮膚科領域での免疫抑制薬の使い方は?	宮地良樹, 大谷道輝	現場の疑問に答える皮膚病治療薬	中外医学社	東京	2008	284-285
11	遠藤平仁	全身性強皮症と消化管症状	竹原和彦, 佐藤伸一, 桑名正隆(編)	強皮症のすべてがわかる本	保健同人社	東京	2008	75-79
12	川口鎮司	全身性強皮症と腎症状	竹原和彦, 佐藤伸一, 桑名正隆(編)	強皮症のすべてがわかる本	保険同人社	東京	2008	80-84
13	桑名正隆	全身性強皮症と呼吸器症状・心臓症状	竹原和彦, 佐藤伸一, 桑名正隆(編)	強皮症のすべてがわかる本	保険同人社	東京	2008	68-74
14	桑名正隆	全身のこわばりと筋痛で受診した82歳女性	鈴木則宏(編)	New 専門医を目指すケース・メソッド・アプローチ 神経疾患	日本医事新報社	東京	2008	321-327
15	桑名正隆	全身性硬化症(強皮症)(内科)	山口徹, 北原光夫, 福井次矢(編)	今日の治療指針 2009年版-私はこう治療している	医学書院	東京	2008	612-614
16	桑名正隆	強皮症	小川聡(編)	内科学書新訂第7版	中山書店	東京		印刷中
17	藤本 学	強皮症のすべて/好酸球性筋膜炎	竹原和彦, 佐藤伸一, 桑名正隆編著	強皮症のすべてがわかる本	保健同人社	東京	2008	100-103
18	藤本 学	強皮症のすべて/特殊な強皮症	竹原和彦, 佐藤伸一, 桑名正隆編著	強皮症のすべてがわかる本	保健同人社	東京	2008	108-112
19	小川文秀	強皮症の用語解説/抗セントロメア抗体	竹原和彦, 佐藤伸一, 桑名正隆編著	強皮症のすべてがわかる本	保健同人社	東京	2008	127
20	小川文秀	強皮症の用語解説/抗トポイソメラーゼ I(Sc1-70)抗体	竹原和彦, 佐藤伸一, 桑名正隆編著	強皮症のすべてがわかる本	保健同人社	東京	2008	127-128
21	小川文秀	強皮症の用語解説/抗 RNA ポリメラーゼ抗体	竹原和彦, 佐藤伸一, 桑名正隆編著	強皮症のすべてがわかる本	保健同人社	東京	2008	129
22	長谷川稔	強皮症のすべて/福祉その他	竹原和彦, 佐藤伸一, 桑名正隆編著	強皮症のすべてがわかる本	保健同人社	東京	2008	113-117
23	長谷川稔	強皮症の用語解説/重症認定	竹原和彦, 佐藤伸一, 桑名正隆編著	強皮症のすべてがわかる本	保健同人社	東京	2008	132
24	長谷川稔	強皮症の用語解説/身体障害者認定	竹原和彦, 佐藤伸一, 桑名正隆編著	強皮症のすべてがわかる本	保健同人社	東京	2008	133

No.	著者氏名	論文タイトル	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
25	長谷川 稔	強皮症の用語解説/難病指定	竹原和彦, 佐藤伸一, 桑名正隆編著	強皮症のすべてがわかる本	保健同人社	東京	2008	135
26	山崎雅英	止血薬, 抗線溶薬	丸藤 哲(編)	救急・集中治療「やさしく学べる血小板・血栓止血の管理」	総合医学社	東京	2008	791-797

【雑誌】

No.	発表者氏名	論文タイトル	発表誌名	巻号	ページ	出版年
1	Yoshizaki A, Iwata Y, Komura K, Ogawa F, Hara T, Muroi E, Takenaka M, Shimizu K, Hasegawa M, Fujimoto M, Tedder TF, Sato S	CD19 regulates skin and lung fibrosis via Toll-like receptor signaling in a model of bleomycin-induced scleroderma.	Am J Pathol	172(6)	1650-1663	2008
2	Komura K, Fujimoto M, Yanaba K, Matsushita T, Matsushita Y, Horikawa M, Ogawa F, Shimizu K, Hasegawa M, Takehara K, Sato S	Blockade of CD40/CD40 ligand interactions attenuates skin fibrosis and autoimmunity in the tight-skin mouse.	Ann Rheum Dis	67(6)	867-872	2008
3	Komura K, Yanaba K, Horikawa M, Tedder TF, Sato S	CD19 associated B cell recruitment regulates bleomycin-induced lung fibrosis.	Arthritis Rheum	58(11)	3574-384	2008
4	Hikami K, Ehara Y, Hasegawa M, Fujimoto M, Matsushita M, Oka T, Takehara K, Sato S , Tokunaga K, Tsuchiya N	Association of IL-10 receptor 2 (IL10RB) SNP with systemic sclerosis.	Biochem Biophys Res Commun	373(3)	403-407	2008
5	Hamaguchi Y, Hasegawa M, Fujimoto M, Matsushita T, Komura K, Kaji K, Kondo M, Nishijima C, Hayakawa I, Ogawa F, Kuwana M, Takehara K, Sato S	The clinical relevance of serum antinuclear antibodies in Japanese patients with systemic sclerosis.	Br J Dermatol	158(3)	487-495	2008
6	Komura K, Yanaba K, Ogawa F, Shimizu K, Takehara K, Sato S	Elevation of IgG levels is a serological indicator for pulmonary fibrosis in systemic sclerosis with anti-topoisomerase I antibodies and those with anticentromere antibody.	Clin Exp Dermatol	33(3)	329-332	2008
7	Shimizu K, Bae SJ, Ogawa F, Hara T, Iwata Y, Yamaoka T, Komura K, Sato S	Involvement of gaseous low molecular monoxides in cutaneous reverse passive Arthus reaction: cytoprotective action of carbon monoxide.	Clin Exp Immunol	153(2)	245-257	2008
8	Ogawa F, Shimizu K, Hara T, Muroi E, Hasegawa M, Takehara K, Sato S	Serum levels of heat shock protein 70, a biomarker of cellular stress, are elevated in patients with systemic sclerosis: association with fibrosis and vascular damage.	Clin Exp Rheumatol	26(4)	659-662	2008
9	Murata M, Fujimoto M, Matsushita T, Hamaguchi Y, Hasegawa M, Takehara K, Komura K, Sato S	Clinical association of serum interleukin-17 levels in systemic sclerosis: is systemic sclerosis a Th17 disease?	J Dermatol Sci	50(3)	240-242	2008
10	Tomimura S, Ogawa F, Iwata Y, Komura K, Hara T, Muroi E, Takenaka M, Shimizu K, Hasegawa M, Fujimoto M, Sato S	Autoantibodies against matrix metalloproteinase-1 in patients with localized scleroderma.	J Dermatol Sci	52(1)	47-54	2008
11	Saito Y, Hasegawa M, Fujimoto M, Matsushita T, Horikawa M, Takenaka M, Ogawa F, Sugama J, Steeber DA, Sato S , Takehara K	The loss of MCP-1 attenuates cutaneous ischemia-reperfusion injury in a mouse model of pressure ulcer.	J Invest Dermatol	128(7)	1838-1851	2008
12	Komura K, Fujimoto M, Hasegawa M, Ogawa F, Hara T, Muroi E, Takehara K, Sato S	Increased serum interleukin 23 in patients with systemic sclerosis.	J Rheumatol	35(1)	120-125	2008
13	Hara T, Ogawa F, Muroi E, Komura K, Takenaka M, Hasegawa M, Fujimoto M, Sato S	Anti-p53 autoantibody in systemic sclerosis: association with limited cutaneous systemic sclerosis.	J Rheumatol	35(3)	451-457	2008
14	Muroi E, Ogawa F, Shimizu K, Komura K, Hasegawa M, Fujimoto M, Sato S	Elevation of serum lymphoactin levels in patients with systemic sclerosis.	J Rheumatol	35(5)	834-838	2008
15	Yoshizaki A, Iwata Y, Komura K, Hara T, Ogawa F, Muroi E, Takenaka M, Shimizu K, Hasegawa M, Fujimoto M, Sato S	Clinical significance of serum hyaluronan levels in systemic sclerosis: association with disease severity.	J Rheumatol	35(9)	1825-1829	2008
16	Shimizu K, Ogawa F, Akiyama Y, Muroi E, Yoshizaki A, Iwata Y, Komura K, Bae SJ, Sato S	Increased serum levels of Nε-(hexanoyl)lysine, a new marker of oxidative stress, in systemic sclerosis.	J Rheumatol	35(11)	2214-2219	2008

No.	発表者氏名	論文タイトル	発表誌名	巻号	ページ	出版年
17	Komura K, Yoshizaki A, Kodera M, Iwata Y, Ogawa F, Shimizu K, Wayaku T, Yukami T, Murata M, Hasegawa M, Fujimoto M, Takehara K, <u>Sato S</u>	Increased serum soluble OX40 in patients with systemic sclerosis.	J Rheumatol	35(12)	2359-2362	2008
18	Hamaguchi Y, Fujimoto M, Matsushita T, Hasegawa M, Takehara K, <u>Sato S</u>	Elevated serum insulin-like growth factor (IGF-1) and IGF binding protein-3 levels in patients with systemic sclerosis: possible role in development of fibrosis.	J Rheumatol	35(12)	2363-2371	2008
19	Nakamura H, Tateishi S, Kawakami A, Ida H, Fukuda T, Sasaki M, Koide Y, Ashizawa N, Seto S, Hayashi T, <u>Sato S</u> , Eguchi K	A case of mixed connective tissue disease complicated with hypertrophic obstructive cardiomyopathy.	Rheumatol Int	28(12)	1273-1275	2008
20	Abe M, Yokoyama Y, Syuto T, Ishibuchi H, <u>Ishikawa O</u>	Interleukin-6 counteracts effects of cyclosporin A on extracellular matrix metabolism by human dermal fibroblasts.	Cell Tissue Res.	333(2)	281-288	2008
21	Hattori T, Obinata H, Ogawa A, Kishi M, Tatei K, <u>Ishikawa O</u> , Izumi T.	G2A plays proinflammatory roles in human keratinocytes under oxidative stress as a receptor for 9-hydroxyoctadecadienoic acid.	J Invest Dermatol.	128(5)	1123-1133	2008
22	Shibusawa Y, Negishi I, Tabata Y, <u>Ishikawa O</u> .	Mouse model of dermal fibrosis induced by one-time injection of bleomycin-poly (L-lactic acid) microspheres.	Rheumatology.	47(4)	454-457	2008
23	Nagai Y, Hasegawa M, Shinmi K, Kishi C, Tsushima Y, Endo K, Okabe K, Suzuki K, <u>Ishikawa O</u> .	Nephrogenic systemic fibrosis with multiple calcification and osseous metaplasia.	Acta Derm Venereol.	88(6)	597-600	2008
24	Nagai Y, Igarashi N, <u>Ishikawa O</u>	Generalized morphea-like systemic sclerosis : a subtype of diffuse cutaneous systemic sclerosis presenting with unusual cutaneous features.	Eur J Dermatol.	18(6)	715-716	2008
25	Yasuda M, Amano H, Yamanaka M, Tamura A, <u>Ishikawa O</u> .	Coincidental association of mycosis fungoides and occupational systemic sclerosis ?	J Dermatol.	35(1)	21-24	2008
26	Nagai Y, Sogabe Y, <u>Ishikawa O</u> .	Tumoral calcinosis of the ribs and lumbar spine in systemic sclerosis.	Eur J Dermatol.	18(4)	473-474	2008
27	Nagai Y, Okada E, Mihara S, Sato K, Ohi S, <u>Ishikawa O</u> .	Severe liver dysfunction due to bosentan in a patient with mixed connective tissue disease.	Eur J Dermatol.	18(2)	190-191	2008
28	渡邊梨恵子 田村政昭 石川 治.	Generalized morphea の 1 例.	臨床皮膚科	62(11)	822-824	2008
29	Ishihara T, Masyguchi S, <u>Ihn H</u> .	Using the Smallest Skin Excision without Dog-Ear Formations: Utilizing Histopathology on the Face.	Dermatol Surg	34	1404-1406	2008
30	Masui Y, Komine M, Kadono T, Ishiura N, Maekawa T, <u>Ihn H</u> , Kikuchi K, Tamaki K.	Proliferating trichilemmal cystic carcinoma: a case containing differentiated and dedifferentiated parts.	J Cutan Pathol	35	55-58	2008
31	Saeki H, Watanabe A, Tada Y, Kakinuma T, Komine M, <u>Ihn H</u> , Asahina A, Etoh T, Kitanaka S, Sato U, Kano H, Igarashi T, Tamaki K.	Juvenile pustular psoriasis associated with steroid withdrawal syndrome due to topical corticosteroid.	J Dermatol	35	601-603	2008
32	Fukushima S, Egawa K, Nishi H, Wakasugi S, Ishii N, Hashimoto T, Yancey KB, <u>Ihn H</u> .	Two cases of anti-epiligrin cicatricial pemphigoid with and without associated malignancies.	Acta Dermato Venereol	88	484-487	2008
33	Fukushima S, Kidou M, <u>Ihn H</u> .	Fixed drug eruption caused by cashew nut.	Allergol Int	57	285-287	2008
34	Hashimoto S, Suga T, Kudo E, <u>Ihn H</u> , Uchino M, Tateishi S.	Adult-onset neurological degeneration in a patient with Cockayne syndrome and a null mutation in the CSB gene.	J Invest Dermatol	128	1597-1599	2008
35	Ikeda I, Nishimoto K, Sasamoto K, Nagira K, Ono T, <u>Ihn H</u> .	Alkaline trypan blue as a stain for superficial fungi.	Br J Dermatol	158	1371-1401	2008
36	Muchemwa FC, Nakatsura T, Fukushima S, Nishimura Y, Kageshita T, <u>Ihn H</u> .	Differential expression of heat shock protein 105 in melanoma and melanocytic naevi.	Melanoma Res	18	166-171	2008

No.	発表者氏名	論文タイトル	発表誌名	巻号	ページ	出版年
37	Ishihara T, Igata T, Masuguchi S, Matsushita S, Sakai K, Ihn H.	Submental perforator flap: location and number of submental perforating vessels.	Scan J Plast Reconstr Surg Hand Surg	42	127-131	2008
38	Yoshino Y, Kageshita T, Nakajima M, Funakubo M, Ihn H.	Clinical relevance of serum levels of matrix metalloproteinase-2, and tissue inhibitor of metalloproteinase-1 and -2 in patients with malignant melanoma.	J Dermatol	35	206-214	2008
39	Xie Y, Zhang X, Wakasugi S, Makino T, Inoue Y, Ihn H.	Immunohistochemical characterization of the cellular infiltrate in localized scleroderma.	Int J Dermatol	47	438-442	2008
40	Inoue Y, Ono T, Matsui T, Miyasaka J, Kinoshita Y, Ihn H.	Epidemiological survey of Vibrio vulnificus infection in Japan between 1999 and 2003.	J Dermatol	35	129-139	2008
41	Hashimoto S, Egawa K, Ihn H. , Igarashi A, Matsunaga T, Tateishi S, Yamaizumi M.	A new disorder in UV-induced skin cancer with defective DNA repair distinct from xeroderma pigmentosum or Cockayne syndrome.	J Invest Dermatol	128	694-701	2008
42	Muchemwa FC, Ma D, Inoue Y, Curtin JA, Bastian BC, Ihn H. , Kageshita T.	Constitutive activation of the phosphatidylinositol 3 kinase signaling pathway in acral lentiginous melanoma.	Br J Dermatol	158	411-413	2008
43	Makino K, Umeda K, Uezu A, Hiragami Y, Sakamoto T, Ihn H. , Nakanishi H.	Identification and characterization of the novel centrosomal protein centlein.	Biochem Biophys Res Commun	366	958-962	2008
44	Ihn H.	Autocrine TGF- β signaling in the pathogenesis of systemic sclerosis.	J Dermatol Sci	49	103-113	2008
45	Xie Y, Zhang X, Inoue Y, Wakasugi S, Makino T, Ihn H.	Expression of CD1a and CD86 on scleroderma Langerhans cells.	Eur J Dermatol	18	50-54	2008
46	永尾麻由子, 門野岳史, 小宮根真弓, 菊池かな子, 玉置邦彦, 前川武雄, 鹿田純一郎, 尹 浩信	多彩な組織像及びケラチン発現を示した有棘細胞癌の1例。	日皮会誌	118	1079-1083	2008
47	増口信一, 石原 剛, 尹 浩信	Distally based neuroskin flap on the sural nerveによる下腿の再建。	日本皮膚外科学会誌	12	42-43	2008
48	梶原一亨, 市原麻子, 肥後順子, 木藤正人, 戸高幹夫, 尹 浩信	劇症1型糖尿病を合併したゾニサミド(エクセグラン)による Drug-induced Hypersensitivity Syndrome (DIHS)の1例。	西日本皮膚科	70	482-486	2008
49	浅尾香恵, 丸尾圭志, 吉野雄一郎, 小串葉月, 三宅大我, 尹 浩信 , 松井珠乃	落葉状天疱瘡から尋常性天疱瘡への移行例。	西日本皮膚科	70	27-30	2008
50	市原麻子, 梶原一亨, 福島 聡, 肥後順子, 津田弘之, 木藤正人, 尹 浩信	虫刺過敏症を伴う慢性リンパ性白血病の1例。	皮膚臨床	50	163-166	2008
51	梶原一亨, 市原麻子, 肥後順子, 木藤正人, 尹 浩信	蜂刺症により横紋筋融解症をきたした1例。	皮膚臨床	50	345-347	2008
52	尹 浩信	全身性強皮症の病態と TGF- β 。	リウマチ科	39	373-376	2008
53	尹 浩信	第31回皮膚脈管・膠原病研究会学会印象記。	アレルギー・免疫	15	972-973	2008
54	尹 浩信	膠原病における皮膚潰瘍治療。	日本ハンセン病学会雑誌	77	211-213	2008
55	Sakai K, Wakasugi S, Muchemwa FC, Ihn H.	Quick detection of herpes viruses from skin vesicles and exudates without nucleic acid extraction using the multiplex PCR method.	Bioscience Trends	2	164-168	2008
56	Kuwata N, Makino T, Inoue Y, Takeya M, Ihn H.	Alternatively activated macrophages (M2 macrophages) in the skin of patients with localized scleroderma.	Exp Dermatol		in press	
57	Fukushima S, Hirata S, Motomura Y, Fukuma D, Matsunaga Y, Haruta M, Ikuta Y, Ikeda T, Kageshita T, Ihn H. , Nishimura Y, Senju S.	Multiple antigen-targeted immunotherapy with α -galactosylceramide-loaded and genetically engineered dendritic cells derived from embryonic stem cells.	J Immunotherapy		in press	

No.	発表者氏名	論文タイトル	発表誌名	巻号	ページ	出版年
58	Ashida R, <u>Ihn H</u> , Mimura Y, Jinnin M, Asano Y, Kubo M, Tamaki K.	Clinical features of scleroderma patients with telangiectasia.	Clin Exp Dermatol		in press	
59	Zhang X, Egawa K, Xie Y, <u>Ihn H</u> .	Expression of SnoN in normal human skin and squamous cell carcinoma.	Int J Dermatol		in press	
60	<u>Yamamoto T</u> .	Pathogenic role of CCL2/MCP-1 in scleroderma.	Front Biosci	13	2686-2695	2008
61	<u>Yamamoto T</u> .	Scleroderma-Pathophysiology	Eur J Dermatol	19	in press	2009
62	Matsushita M, <u>Yamamoto T</u> , Yokozeki H.	Role of IL-13 and PAI-1 in bleomycin-induced murine scleroderma.	J Med Dent Sci	55(3-4)	215-225	2008
63	Kawakami Y, Ohtsuka M, Kikuta A, <u>Yamamoto T</u> .	Multiple morphea-like lesions associated with chronic graft-versus-host disease after cord blood transplantation.	Acta Derm Venereol	89(1)	86-87	2009
64	山本俊幸	膠原病の皮膚症状～皮膚症状からのアプローチ～	日本臨床皮膚科医会雑誌	25(5)	490-494	2008
65	山本俊幸	関節リウマチの皮膚症状	皮膚病診療	30(10)	1104-1110	2008
66	遠藤平仁	強皮症の病態とそのマネージメント 強皮症腎	リウマチ科	39	337-342	2008
67	遠藤平仁	膠原病診療の最近の進歩と今後の展望 強皮症	MEDICO	39	431-434	2008
68	Sumita Y, Sugiura T, <u>Kawaguchi Y</u> , Baba S, Soejima M, Murakawa Y, Hara M, Kamatani N	Genetic polymorphisms in the surfactant proteins in systemic sclerosis in Japanese: T/T genotype at 1580 C/T (Thr131Ile) in the SP-B gene reduces the risk of interstitial lung disease	Rheumatology	47	289-291	2008
69	<u>Kawaguchi Y</u> , Nakamura Y, Matsumoto I, Nishimagi E, Kamatani N, Satoh T, Kuwana M, Sumida T, Hara N.	Muscarinic-3 Acetylcholine Receptor Autoantibody in Patients with Systemic Sclerosis: Contribution to Severe Gastrointestinal Tract Dysmotility	Ann Rheum Dis		in press	
70	<u>Kawaguchi Y</u> , Ota Y, Kawamoto M, Ito I, Tsuchiya N, Sugiura T, Katsumata Y, Soejima M, Sato S, Hasegawa M, Fujimoto M, Takehara K, Kuwana M, Yamanaka H, Hara M	Association study of a polymorphism of the CTGF gene and susceptibility to systemic sclerosis in the Japanese population	Ann Rheum Dis		in press	
71	川口鎮司	全身性強皮症	内科	101	648-653	2008
72	Kawai M, Masuda A, <u>Kuwana M</u>	A CD40-CD154 interaction in tissue fibrosis.	Arthritis Rheum	58(11)	3562-3573	2008
73	Hoshi M, Yasuoka H, <u>Kuwana M</u>	Estrogen receptor gene polymorphisms in Japanese patients with systemic sclerosis.	Clin Exp Rheumatol	26(5)	914-917	2008
74	桑名正隆	強皮症患者のケアにおける現状と問題点-診断基準、病型分類、活動性の評価、臓器障害の評価について-	リウマチ科	39(4)	281-288	2008
75	桑名正隆	膠原病の難治性病態-新しい考え方と新規治療法への応用; 強皮症の血管病変における血管内皮前駆細胞の役割とスタチン。	リウマチ科	39(5)	393-399	2008
76	桑名正隆	強皮症の臨床における抗 RNA ポリメラーゼ抗体の有用性。	リウマチ科	40(3)	239-245	2008
77	Yamamoto M, <u>Takahashi H</u> , Akaike J, Suzuki C, Naishiro Y, Yamamoto H, Imai K, Shinomura Y	Gastric antral vascular ectasia (GAVE) associated with systemic sclerosis.	Scand J Rheumatol	37 (4)	315-316	2008
78	後藤啓, 田沼徳真, 山本元久, <u>高橋裕樹</u> , 篠村恭久	全身性強皮症に合併した慢性消化管出血	レジデント	1 (9)	26-33	2008
79	足立靖, 山本博幸, 山本元久, 有村佳昭, <u>高橋裕樹</u> , 遠藤高夫, 石井良文, 加藤康夫, 今井浩三, 篠村恭久	膠原病・リウマチ疾患患者における Cajal 介在細胞 (ICC) の変化	Therapeutic Research	29 (4)	517-519	2008

No.	発表者氏名	論文タイトル	発表誌名	巻号	ページ	出版年
80	Hamaguchi Y, Hasegawa M, Matsushita T, Komura K, Takehara K, Fujimoto M	Clinical association of serum CD137(4-1BB) levels in patients with systemic sclerosis	J Dermatol Sci	53(2)	159-161	2009
81	Komura K, Fujimoto M, Yanaba K, Matsushita T, Matsushita Y, Horikawa M, Ogawa F, Shimizu K, Hasegawa M, Takehara K, Sato S	Blockade of CD40-CD40 ligand interactions attenuates skin fibrosis and autoimmunity in the tight-skin mouse.	Ann Rheum Dis	67(6)	867-872	2008
82	Saito Y, Hasegawa M, Fujimoto M, Matsushita T, Horikawa M, Takenaka M, Ogawa F, Sugama J, Steeber DA, Sato S, Takehara K	The loss of MCP-1 attenuates cutaneous ischemic-reperfusion injury in a mouse model of pressure ulcer	J Invest Dermatol	128(7)	1838-1851	2008
83	Komura K, Fujimoto M, Hasegawa M, Ogawa F, Hara T, Muroi E, Takehara K, Sato S	Increased serum interleukin 23 in patients with systemic sclerosis	J Rheumatol	35(1)	120-125	2008
84	Hamaguchi Y, Hasegawa M, Fujimoto M, Matsushita T, Komura K, Kaji K, Kondo M, Nishijima C, Hayakawa I, Ogawa F, Kuwana M, Takehara K, Sato S	The clinical relevance of serum antinuclear antibodies in Japanese patients with systemic sclerosis	Br J Dermatol	158(3)	487-495	2008
85	Ikawa Y, Poh-Sing NG, Endo K, Kondo M, Chujo S, Ishida W, Shirasaki F, Fujimoto M, Takehara K	Neutralizing monoclonal antibody to human connective tissue growth factor ameliorates transforming growth factor- β -induced mouse fibrosis	J Cellular Physiol	216(3)	680-687	2008
86	Murata M, Fujimoto M, Matsushita T, Hamaguchi Y, Hasegawa M, Takehara K, Komura K, Sato S	Clinical association of serum interleukin-17 levels in systemic sclerosis: Is systemic sclerosis a Th17 disease?	J Dermatol Sci	50(3)	240-242	2008
87	Hikami K, Ehara Y, Hasegawa M, Fujimoto M, Matsushita M, Oka T, Takehara K, Sato S, Tokunaga K, Tsuchiya N	Association of IL-10 receptor 2 (IL10RB) SNP with systemic sclerosis	Biochem Biophys Res Commun	373	403-407	2008
88	Komura K, Yanaba K, Horikawa M, Ogawa F, Fujimoto M, Tedder TF, Sato S	CD19 Regulates the development of bleomycin-induced pulmonary fibrosis in a mouse model	Arthritis Rheum	58(11)	3574-3584	2008
89	Komura K, Yoshizaki A, Koderu M, Iwata Y, Ogawa F, Shimizu K, Wayaku T, Yukami T, Murata M, Hasegawa M, Fujimoto M, Takehara K, Sato S	Increased serum soluble OX40 in patients with systemic sclerosis	J Rheumatol	35(12)	2359-2362	2008
90	Hamaguchi Y, Fujimoto M, Matsushita T, Hasegawa M, Takehara K, Sato S	Elevated serum insulin-like growth factor (IGF-1) and IGF binding protein-3 levels in patients with systemic sclerosis: possible role in development of fibrosis	J Rheumatol	35(12)	2363-2381	2008
91	藤本 学	膠原病における自己抗体の新しい展開	皮膚臨床	50(3)	241-249	2008
92	濱口 備人, 藤本 学, 長谷川 稔, 竹原 和彦, 北川 清樹, 和田 隆志, 桑名 正隆	14年間の経過後に強皮症腎を発症した抗 U3 RNP 抗体陽性全身性強皮症の1例	皮膚臨床	50(3)	317-321	2008
93	村田 真希, 加治 賢三, 濱口 備人, 長谷川 稔, 藤本 学, 竹原 和彦, 桑名 正隆	当科における抗 RNA ポリメラーゼ抗体陽性全身性強皮症の臨床的特徴	皮膚臨床	50(3)	323-327	2008
94	錦織 知穂, 平野 貴士, 加治 賢三, 濱口 備人, 藤本 学, 桑名 正隆, 竹原 和彦	経過中に関節リウマチを合併した抗 hUBF 抗体陽性全身性強皮症	皮膚臨床	50(3)	329-331	2008
95	袖本 衣代, 長谷川 稔, 石垣 光, 平野 貴士, 松下 貴史, 小村 一浩, 中條 園子, 白崎 文朗, 桑名 正隆, 藤本 学, 佐藤 伸一, 竹原 和彦	抗 RNA polymerase I/III 抗体陽性全身性強皮症の2例	日皮会誌	118(10)	1961-1966	2008

No.	発表者氏名	論文タイトル	発表誌名	巻号	ページ	出版年
96	Yoshizaki A, Komura K, Iwata Y, Ogawa F, Hara T, Muroi E, Takenaka M, Shimizu K, Hasegawa M, Fujimoto M, Sato S.	Clinical Significance of Serum HMGB-1 and sRAGE Levels in Systemic Sclerosis: Association with Disease Severity.	J Clin Immunol	30	in press	2008
97	Yoshizaki A, Iwata Y, Komura K, Ogawa F, Hara T, Muroi E, Takenaka M, Shimizu K, Hasegawa M, Fujimoto M, Tedder TF, Sato S.	CD19 regulates skin and lung fibrosis via Toll-like receptor signaling in a model of bleomycin-induced scleroderma.	Am J Pathol	172(6)	1650-1663	2008
98	Yoshizaki A, Iwata Y, Komura K, Hara T, Ogawa F, Muroi E, Takenaka M, Shimizu K, Hasegawa M, Fujimoto M, Sato S.	Clinical significance of serum hyaluronan levels in systemic sclerosis: association with disease severity.	J Rheumatol.	35(9)	1825-1829	2008
99	Tomimura S, Ogawa F, Iwata Y, Komura K, Hara T, Muroi E, Takenaka M, Shimizu K, Hasegawa M, Fujimoto M, Sato S.	Autoantibodies against matrix metalloproteinase-1 in patients with localized scleroderma.	J Dermatol Sci	52(1)	47-54	2008
100	Shimizu K, Ogawa F, Akiyama Y, Muroi E, Yoshizaki A, Iwata Y, Komura K, Bae S, Sato S.	Increased Serum Levels of N(epsilon)-(hexanoyl)lysine, A New Marker of Oxidative Stress, in Systemic Sclerosis	J Rheumatol	35(11)	2214-2219	2008
101	Shimizu K, Bae SJ, Hara T, Iwata Y, Yamaoka T, Komura K, Muroi E, Takenaka M, Ogawa F, Sato S.	Involvement of gaseous low molecular monoxides in the cutaneous reverse passive Arthus reaction: cytoprotective action of carbon monoxide	Clin Exp Immunol	153(2)	245-257	2008
102	Saito Y, Hasegawa M, Fujimoto M, Matsushita T, Horikawa M, Takenaka M, Ogawa F, Sugama J, Steeber DA, Sato S, Takehara K.	The loss of MCP-1 attenuates cutaneous ischemia-reperfusion injury in a mouse model of pressure ulcer	J Invest Dermatol	128(7)	1838-1851	2008
103	Ogawa F, Shimizu K, Hara T, Muroi E, Hasegawa M, Takehara K, Sato S.	Serum levels of heat shock protein 70, a biomarker of cellular stress, are elevated in patients with systemic sclerosis: association with fibrosis and vascular damage.	Clin Exp Rheumatol	26(4)	659-662	2008
104	Muroi E, Ogawa F, Shimizu K, Komura K, Hasegawa M, Fujimoto M, Sato S	Elevation of serum lymphotactin levels in patients with systemic sclerosis	J Rheumatol	35(5)	834-838	2008
105	Komura K, Yoshizaki A, Koderia M, Iwata Y, Ogawa F, Shimizu K, Wayaku T, Yukami T, Murata M, Hasegawa M, Fujimoto M, Takehara K, Sato S	Increased Serum Soluble OX40 in Patients with Systemic Sclerosis	J Rheumatol	35	2359-2362	2008
106	Komura K, Yanaba K, Ogawa F, Shimizu K, Takehara K, Sato S	Elevation of IgG levels is a serological indicator for pulmonary fibrosis in systemic sclerosis with anti-topoisomerase I antibodies and those with anticentromere antibody	Clin Exp Dermatol	33(3)	329-332	2008
107	Komura K, Yanaba K, Horikawa M, Ogawa F, Fujimoto M, Tedder TF, Sato S	CD19 regulates the development of bleomycin-induced pulmonary fibrosis in a mouse model	Arthritis Rheum	58(11)	3574-3584	2008
108	Komura K, Fujimoto M, Yanaba K, Matsushita T, Matsushita Y, Horikawa M, Ogawa F, Shimizu K, Hasegawa M, Takehara K, Sato S	Blockade of CD40/CD40 ligand interactions attenuates skin fibrosis and autoimmunity in the tight-skin mouse	Ann Rheum Dis	67(6)	867-872	2008
109	Komura K, Fujimoto M, Hasegawa M, Ogawa F, Hara T, Muroi E, Takehara K, Sato S	Increased serum interleukin 23 in patients with systemic sclerosis	J Rheumatol	35(1)	120-125	2008
110	Iwata Y, Komura K, Koderia M, Usuda T, Yokoyama Y, Hara T, Muroi E, Ogawa F, Takenaka M, Sato S	Correlation of IgE autoantibody to BP180 with a severe form of bullous pemphigoid	Arch Dermatol	144(1)	414-8	2008
111	Hara T, Ogawa F, Yanaba K, Iwata Y, Muroi E, Komura K, Takenaka M, Shimizu K, Hasegawa M, Fujimoto M, Sato S	Elevated Serum Concentrations of Polymorphonuclear Neutrophilic Leukocyte Elastase in Systemic Sclerosis: Association with Pulmonary Fibrosis	J Rheumatol	15	in press	2008

No.	発表者氏名	論文タイトル	発表誌名	巻号	ページ	出版年
112	Hara T, <u>Ogawa F</u> , Muroi E, Komura K, Takenaka M, Hasegawa M, Fujimoto M, Sato S	Anti-p53 autoantibody in systemic sclerosis: association with limited cutaneous systemic sclerosis	J Rheumatol	35(3)	451-457	2008
113	Hamaguchi Y, Hasegawa M, Fujimoto M, Matsushita T, Komura K, Kaji K, Kondo M, Nishijima C, Hayakawa I, <u>Ogawa F</u> , Kuwana M, Takehara K, Sato S	The clinical relevance of serum antinuclear antibodies in Japanese patients with systemic sclerosis	Br J Dermatol	158(3)	487-495	2008
114	<u>Inagaki Y</u> , Higashi K, Kushida M, Hong YY, Nakao S, Higashiyama R, Moro T, Itoh J, Mikami T, Kimura T, Shiota G, Kuwabara K, Okazaki I	Hepatocyte growth factor suppresses profibrogenic signal transduction via nuclear export of Smad3 with galectin-7.	Gastroenterology	134(4)	1180-1190	2008
115	Moro T, Shimoyama Y, Kushida M, Hong YY, Nakao S, Higashiyama R, Sugioka Y, Inoue H, Okazaki I, <u>Inagaki Y</u>	Glycyrrhizin and its metabolite inhibit Smad3-mediated type I collagen gene transcription and suppress experimental murine liver fibrosis.	Life Sciences	83(15-16)	531-539	2008
116	稲垣 豊、東山礼一	肝線維化機序の解明で今何が問題になっているのか	肝胆臓	57(2)	187-192	2008
117	Kawasaki A, Kyogoku C, Ohashi J, Miyashita R, Hikami K, Kusaoi M, Tokunaga K, Takasaki Y, Hashimoto H, Behrens TW, <u>Tsuchiya N</u>	Association of IRF5 polymorphisms with systemic lupus erythematosus in a Japanese population. Support for a crucial role of intron 1 polymorphisms 2008;58: 826-834.	Arthritis Rheum	58	826-834	2008
118	Hikami K, Ehara Y, Hasegawa M, Fujimoto M, Matsushita M, Oka T, Takehara K, Sato S, Tokunaga K, <u>Tsuchiya N</u>	Association of IL-10 receptor 2 (IL10RB) SNP with systemic sclerosis.	Biochem Biophys Res Commun	373	403-407	2008
119	Kawaguchi Y, Ota Y, Kawamoto M, Ito I, <u>Tsuchiya N</u> , Sugiura T, Katsumata Y, Soejima M, Sato S, Hasegawa M, Fujimoto M, Takehara K, Kuwana M, Yamanaka H, Hara M	Association study of a polymorphism of the CTGF gene and susceptibility to systemic sclerosis in the Japanese population.	Ann Rheum Dis	published online 3 Dec 2008	doi:10.1136/ard.2008.100586	2008
120	Hamaguchi Y, <u>Hasegawa M</u> , Matsushita T, Komura K, Takehara K, Fujimoto M	Clinical association of serum CD137(4-1BB) levels in patients with systemic sclerosis	J Dermatol Sci	53(2)	159-161	2009
121	Komura K, Fujimoto M, Yanaba K, Matsushita T, Matsushita Y, Horikawa M, Ogawa F, Shimizu K, <u>Hasegawa M</u> , Takehara K, Sato S	Blockade of CD40-CD40 ligand interactions attenuates skin fibrosis and autoimmunity in the tight-skin mouse.	Ann Rheum Dis	67(6)	867-872	2008
122	Komura K, Fujimoto M, <u>Hasegawa M</u> , Ogawa F, Hara T, Muroi E, Takehara K, Sato S	Increased serum interleukin 23 in patients with systemic sclerosis	J Rheumatol	35(1)	120-125	2008
123	Hasegawa M, Sato S	The roles of chemokines in leukocyte recruitment and fibrosis in systemic sclerosis	Frontiers in Biosciences	1(13)	3637-3647	2008
124	Hamaguchi Y, <u>Hasegawa M</u> , Fujimoto M, Matsushita T, Komura K, Kaji K, Kondo M, Nishijima C, Hayakawa I, Ogawa F, Kuwana M, Takehara K, Sato S	The clinical relevance of serum antinuclear antibodies in Japanese patients with systemic sclerosis	Br J Dermatol	158(3)	487-495	2008
125	Murata M, Fujimoto M, Matsushita T, Hamaguchi Y, <u>Hasegawa M</u> , Takehara K, Komura K, Sato S	Clinical association of serum interleukin-17 levels in systemic sclerosis: Is systemic sclerosis a Th17 disease?	J Dermatol Sci	50(3)	240-242	2008
126	Hikami K, Ehara Y, <u>Hasegawa M</u> , Fujimoto M, Matsushita M, Oka T, Takehara K, Sato S, Tokunaga K, <u>Tsuchiya N</u>	Association of IL-10 receptor 2 (IL10RB) SNP with systemic sclerosis	Biochem Biophys Res Commun	373	403-407	2008

No.	発表者氏名	論文タイトル	発表誌名	巻号	ページ	出版年
127	Komura K, Yoshizaki A, Kodera M, Iwata Y, Ogawa F, Shimizu K, Wayaku T, Yukami T, Murata M, Hasegawa M, Fujimoto M, Takehara K, Sato S	Increased serum soluble OX40 in patients with systemic sclerosis	J Rheumatol	35 (12)	2359-2362	2008
128	Hamaguchi Y, Fujimoto M, Matsushita T, Hasegawa M, Takehara K, Sato S	Elevated serum insulin-like growth factor (IGF-1) and IGF binding protein-3 levels in patients with systemic sclerosis: possible role in development of fibrosis	J Rheumatol	35 (12)	2363-2381	2008
129	濱口 儒人, 長谷川 稔	強皮症の病変とそのマネージメント: 皮膚硬化	リウマチ科	39(4)	289-296	2008
130	長谷川 稔	全身性強皮症の病型分類・早期診断	MB Derma	136	35-40	2008
131	長谷川 稔	全身性強皮症の病態におけるケモカインの役割	日臨免会誌	31(1)	23-36	2008
132	村田真希, 加治賢三, 濱口 儒人, 長谷川 稔, 藤本 学, 竹原和彦, 桑名正隆	当科における抗 RNA ポリメラーゼ抗体陽性全身性強皮症の臨床的特徴	皮膚臨床	50(3)	323-327	2008
133	和薬孝昌, 長谷川 稔, 伊川友香, 十河香奈, 湯上 徹, 谷内克成, 佐藤伸一, 山崎雅英, 和田隆志, 横山 仁, 竹原和彦	抗リン脂質抗体症候群による末梢神経障害と微小多発脳梗塞を呈し経過中に免疫吸着療法を要した混合性結合組織病の1例	皮膚臨床	50(3)	333-337	2008
134	濱口 儒人, 藤本 学, 長谷川 稔, 竹原和彦, 北川清樹, 和田隆志, 桑名正隆	14年間の経過後に強皮症腎を発症した抗 U3 RNP 抗体陽性全身性強皮症の1例	皮膚臨床	50(3)	317-321	2008
135	栗山 喬之, 田邊信宏, 佐藤 徹, 佐地 勉, 中山智孝, 竹原和彦, 長谷川 稔, 渡邊裕司, 竹内和彦, 山田典一, 大田覚史, 中野 魁, 原田明久	肺動脈性肺高血圧症に対するシルデナフィルクエン酸塩の使用成績 Sildenafil therapy for pulmonary arterial hypertension	臨床医薬	24(4)	275-287	2008
136	長谷川 稔, 佐藤伸一	強皮症における接着分子異常	リウマチ科	39(4)	352-360	2008
137	袖本衣代, 長谷川 稔, 石垣 光, 平野貴士, 松下貴史, 小村一浩, 中條園子, 白崎文朗, 桑名正隆, 藤本 学, 佐藤伸一, 竹原和彦	抗 RNA polymerase I/III 抗体陽性全身性強皮症の2例	日皮会誌	118 (10)	1961-1966	2008
138	長谷川 稔, 佐藤伸一	Q35 爪囲血管病変の診断にダーモスコピーは役立ちますか?	皮膚臨床	50 (11)	1470-1474	2008
139	Kawakami T, Yamazaki M, Mizoguchi M, Soma Y	High titer of serum antiphospholipid antibody levels in adult Henoch-Schonlein purpura and cutaneous leukocytoclastic angitis.	Arthritis Rheumatism	59(4)	561-567	2008
140	井出葉子, 高田実, 武藤美香, 村田浩, 宇原久, 斎田俊明, 山崎雅英	網状皮斑および皮膚潰瘍患者におけるループス抗凝固因子	日本皮膚科学会雑誌	118(8)	1519-1526	2008
141	Morishita E, Sekiya A, Hayashi T, Kadohira Y, Maekawa M, Yamazaki M, Asakura H, Nakao S, Ohtake S.	Increased macrophage colony-stimulating factor levels in patients with Graves' disease.	Int J Hematol	88(3)	272-277	2008
142	Omote M, Asakura H, Takamichi S, Shibayama M, Yoshida T, Kadohira Y, Maekawa M, Yamazaki M, Morishita E, Nakao S, Wada T.	Changes in molecular markers of hemostatic and fibrinolytic activation under various sampling conditions using vacuum tube samples from healthy volunteers.	Thromb Res	123(2)	390-395	2008
143	Hayashi T, Morishita E, Ohtake H, Oda Y, Ohta K, Arahata M, Kadohira Y, Maekawa M, Ontachi Y, Yamazaki M, Asakura H, Takami A, Nakao S.	Expression of annexin II in human atherosclerotic abdominal aortic aneurysms.	Thromb Res	123(2)	274-280	2008

No.	発表者氏名	論文タイトル	発表誌名	巻号	ページ	出版年
144	Nakaya I, Toyama T, Uchiyama A, Miwa A, Kawabata M, <u>Yamazaki M</u> , Iida H	Pulmonary hemorrhage, due to rupture of small muscular arteries, in an autopsy case of systemic lupus erythematosus with antiphospholipid antibodies	Mod Rheumatol	18	529-531	2008
145	Kawakami T, <u>Yamazaki M</u> , Kawasaki K, Mizoguchi M, Soma Y	Therapeutic effect of argatroban on rheumatoid vasculitis with antiphosphatidylserine-prothrombin complex antibody.	Arch Dermatol	144(8)	1075-1076	2008
146	山崎雅英	抗リン脂質抗体症候群の診断と治療	Monthly Book Derma	136	47-54	2008
147	<u>山崎雅英</u> , 朝倉英策, 尾崎由基男	臨床検査:現状と展望 5.血液疾患 2) 凝固・線溶系	日本内科学会雑誌	97(12)	2974-2982	2008
148	<u>山崎雅英</u> , 安納美知子	免疫抑制療法患者の感染対策	Circles for the future of quality care	10(3)	12-18	2008
149	Kawakami T, Ohka S, Mizoguchi M, Soma Y, <u>Yamazaki M</u>	Remission of hepatitis B virus-related cryoglobulinemic vasculitis with entecavir.	Ann Intern Med	149 (12)	911-912	2008

厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業
強皮症における病因解明と根治的治療法の開発
平成 20 年度 総括・分担研究報告書

発行 平成21年 3 月
発行所 強皮症調査研究班事務局
長崎大学大学院医歯薬学総合研究科皮膚病態学分野内
〒852-8501 長崎市坂本 1-7-1
TEL 095-819-7333, FAX 095-849-7335